

浅海増殖試験

多古地区におけるサザエ資源調査

吉尾 二郎

数年前から、昭和58年頃に発生したと思われるサザエの卓越が全県的に認められ、昭和62年頃から漁獲の対象になることが予測された。そこで、これら卓越年級群の漁獲状況を明確にし、継続して追跡することにした。このことにより、数カ年後にはサザエ資源診断が可能と考えた。今年度は初年度分の資料収集を行ったが、概要を以下に報告する。

材 料 と 方 法

島根半島東部の多古地区を対象海域に選定し、昭和62年8月から9月にかけて、刺網による漁獲物、磯見による漁獲物の殻高を測定した。また、水試地先の恵曇地区でも素もぐり（潜水）による漁獲物を7月から9月にかけて調査した。多古地区のサザエ漁獲量については、野波漁協多古支所の集計資料を参考にした。

結 果 及 び 考 察

多古地区のサザエ測定結果を表1、図1に、漁獲量の経年変化と昭和62年の漁業種類別漁獲状況を表2・3にあらわした。当地区の漁業種類別漁獲物の殻高組成は、刺網で双峰型の組成となり、磯見で単峰型の組成となった。一般に、刺網は深所での操業、磯見は浅所での操業と考えられることから、両者の組成のちがいは、サザエの成長に伴う深所移動を意味していると考えられた。

恵曇地区に限られた区域の素もぐりによるサザエ漁獲物組成を表4、図2にあらわしたが、小型中心の単峰型の組成であり、これらは特定の年級群で占められると考えられた。

多古地区のサザエ漁獲量は、昭和50年代後半低迷していたが、昭和61年から好転し、昭和50年代前半の水準に近づいた。漁業種類別に見ると、当地区の漁獲は刺網が78%を占めた。

本調査は、多古地区のサザエ資源の診断を目的に始めたものであり、今年度の調査は次につなげる資料の一部と考え、解析・診断等については資料の蓄積を待って行う予定である。

表1 多古地区サザエ漁獲物組成

S 62

項目 殻高範囲(mm)	刺網漁獲分 8/21		磯見漁獲分 9/16	
	個体数	%	個体数	%
50 ~ 54	2	0.3	3	0.5
55 ~ 59	8	1.4	76	12.1
60 ~ 64	56	9.5	190	30.3
65 ~ 69	108	18.3	151	24.1
70 ~ 74	134	22.7	89	14.2
75 ~ 79	118	19.9	51	8.1
80 ~ 84	83	14.0	36	5.7
85 ~ 89	49	8.3	15	2.4
90 ~ 94	22	3.7	10	1.6
95 ~ 99	8	1.4	4	0.6
100 ~ 104	1	0.2	1	0.2
105 ~ 109	2	0.3	1	0.2
計	591	100.0	627	100.0

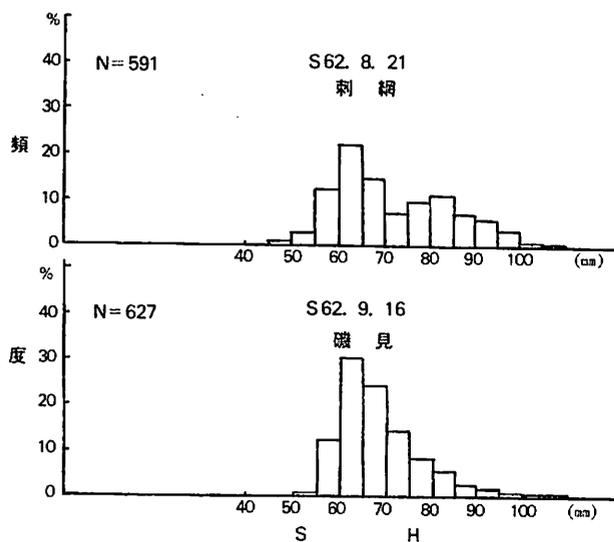


図1 多古地区サザエ殻高組成

表2 多古支所サザエ漁獲量

年度	漁獲量(トン)
昭和 50	8.0
51	15.5
52	11.0
53	11.5
54	7.5
55	4.0
56	2.5
57	1.6
58	1.5
59	1.7
60	3.0
61	7.5
62	9.6

表3 昭和62年の多古支所漁業種類別サザエ漁獲量(kg)

刺網	磯見	潜水
7.474	1.569	518

表4 恵曇地先サザエ漁獲物組成(素もぐり)

S 62

項目 殻高範囲(mm)	7 月 分		8 月 分		9 月 分		7. 8. 9 月 合 計	
	個体数	%	個体数	%	個体数	%	個体数	%
25 ~ 29			3	0.5			3	0.2
30 ~ 34			0	0			0	0
35 ~ 39			1	0.1			1	0.1
40 ~ 44	8	1.3	16	2.5	4	1.7	28	1.9
45 ~ 49	68	11.4	98	15.3	56	23.2	222	15.0
50 ~ 54	175	29.3	201	31.4	78	32.4	454	30.7
55 ~ 59	167	28.0	221	34.5	79	32.8	467	31.6
60 ~ 64	117	19.6	68	10.6	20	8.3	205	13.9
65 ~ 69	38	6.4	22	3.4	3	1.2	63	4.2
70 ~ 74	15	2.5	3	0.5	1	0.4	19	1.3
75 ~ 79	5	0.8	3	0.5			8	0.5
80 ~ 84	3	0.2	3	0.5			6	0.4
85 ~ 89	1	0.2	2	0.3			3	0.2
	597		641		241		1,479	100.0

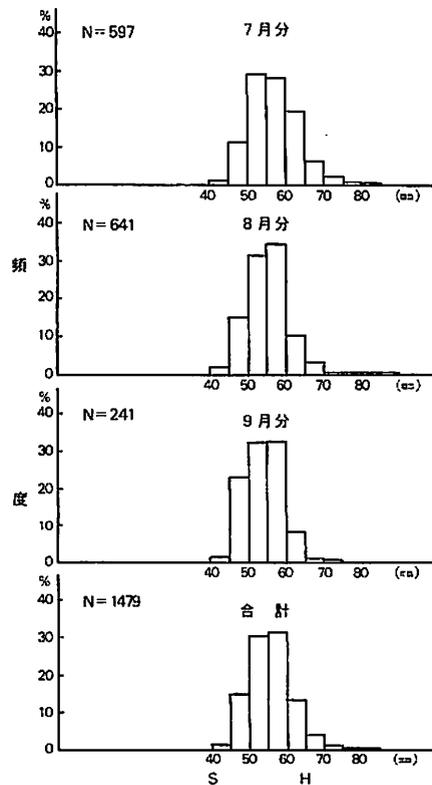


図2 恵曇地区サザエ殻高組成